

トリトン・アーツ共催公演

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第219回定期演奏会

The 219th Regular Concert



ほんとの子どもと大きくなった子どものための

長澤勝俊の「子供のための組曲」から半世紀

日本音楽集団からの新たなメッセージ

「子どものための組曲」

2016年11月19日[土]

午後2時開演

第一生命ホール

演出：米澤浩
構成：穂積大志
舞台監督：中島隆

主催／特定非営利活動法人日本音楽集団

共催／認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール

助成／平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

後援／公益財団法人日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION



■ 日本音楽集団：http://www.promusica.or.jp/ E-mail：office@promusica.or.jp

■ トリトン・アーツ・ネットワーク：http://www.triton-arts.net

Facebookファンページ
promusicanipponia

邦楽とアウトリーチと子どもたち

児玉 真

(公共ホール邦楽活性化事業チーフコーディネーター)

1. 音楽ホールと

日本音楽集団との出会い

日本音楽集団とトリトン・アーツ・ネットワーク(TAN)という二つのNPOの成立はおおよそ同じ頃で、第一生命ホールは、都心でも下町でもある2つの性格を持つ中央区という場所にできるホールとしてのアイデンティティを、アウトリーチという外に出て行く手法を開発しながら作っていくのは大事な要素と考えていた。その中で注目したのが邦楽への取り組みだった。ちょうど日本音楽集団もNPOとして、邦楽合奏の芸術的可能性を高めていく以外の活動(社会的活動)を模索し始めたところだった。TANは会場を提供することで音楽的な追求(特にテーマ性のある定期公演)を果たしてもらいながら、アウトリーチ活動においてはTANのノウハウと日本音楽集団の力を結集して行きたいという気持ちがあった。TANはまず邦楽という装置を学ぶところから始めたわけだけれど、一方で特に学校など子どもたちへのアウトリーチについてはそれまで音楽家がなかなか直感できなかったであろう理念や新しい発想、手法を使って、一緒にプログラムを作ることをめざし、二つのNPOにとって強い意味を持つようにしたいと思っていた。それは、素晴らしい演奏を提供して音楽好きの要望に応じていくこと、それによって音楽に触れる人を増やす、という当時の既製の芸術団体や音楽ホールの王道(特に東京では)とは若干違うことにどれだけエネルギーを注ぐかという実験でもあったような気がする。

2. アウトリーチの始まりと 「ゴールのない旅」

日本音楽集団がそのときに一定の学校プログラムを持っていたことは、それをスタートラインに考えられたという良い面もあったが、難しい面もあったと思える。それも今までの邦楽の鑑賞と楽器体験という学校公演の方法とアウトリーチの概念に若干ずれがあったからの故であろう。その後継続して中央区の学校に対して、毎年様々な形でアウトリーチを行ってもらったし、ホールなどでも楽器体験など様々なアプローチを行ってきた。

邦楽に限らないことだが、学校の子どもたちのことを想像しながらアウトリーチのプログラムを作る、ということは、そこに音楽の興味をもてない一定の子どもたちを含む集団に、どのようにすれば意味のある時間をもたらすことができるか、という難問がある。だからこそ、ありとあらゆる方法を考えないといけない。そのためには、まず己が好きで無い分野に対してどのように感じ、どうすれば興味という心の動きの戸口に立てるか、を想像しそれを自分が一番知っている「邦楽」という世界に援用してみる必要がある。それを考えることの楽しさと豊かさをディレクションする人もアーティストも感じられるかどうかが大変なのではないかと思う。

子どもは単に知識や経験の無い無辜な存在なのではなく、社会の様々なことに興味を示し影響も強く受けている存在である。だから、場所、学校の雰囲気、社会現象などで常に変わっているし、学校やクラスごとのムードの違いもきわめて大きい。アウトリーチのプログラムも、正解を見つけてそれを実施するという方法では満足のできるアウトリーチが保証できるというわけでも無い。私の場合、常に動態の中にあり、一つの正解を探そうに突き詰められないのがアウトリーチに興味を継続させて飽きない最大の理由だろう。

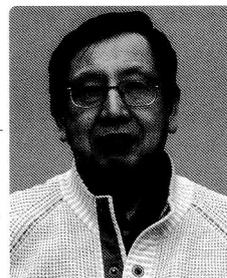
3. 体験するのは音楽か音楽家か。 鑑賞とワークショップ

一方で、子どもは単に教えて体験させるだけの相手ではない。今日のコンサートのようなプログラムの意義や面白さもそのことと関係があるだろう。そのことに思いを馳せるのは時間をかける意味がある。実はアウトリーチもコンサートも意識の中ではつながっている。アウトリーチが直接的に集客につながっている、と楽天的に考えているわけではないが、逆にアウトリーチの役割はもっと人間生活の根源的なところにあると思うことにしている。たとえば美味しいお菓子の役割では無く、それが無いと人間の健康が維持できないようなビタミンのようにじんわりと効いてくるもの。

さて、アウトリーチについては、今意識していることが二つほどある。その一つはアウトリーチで音楽家という生身の人間が子どもの目の前に行くことの意味。だからアウトリーチで感じてもらうことは、音楽そのものを理解してもらうことよりも音楽に向き合っている音楽家の姿勢とそれ故に出てくる音楽そのものを体験してもらうことではないか、と思う自分が正しいかどうかということ。もう一つは子どもの身体の中に天性に存在する音楽のなにかを子どもが自分の身体(あたまや心も含む)で感じる方法はより鑑賞よりもワークショップの方向に行くのではないか、という気持ち。これも正解の無い思考の回転なのだけれども、そのような状態を良しとする自分がいるということである。

児玉 真 (こだま・しん)

2000年までカザルスホールで、その後NPOトリトン・アーツ・ネットワークで自主事業を企画。2007年からいわきアリオスの自主事業を統括する。地域創造の公共ホール音楽活性化事業や邦楽活性化事業のチーフコーディネーターを歴任。また、各地でアウトリーチ事業のコーディネーターやアーティストの指導を行っている。現在、(一財)地域創造プロデューサー、長崎市芸術アドバイザー、東京芸大、桐朋学園芸術短大非常勤講師。



子どもと伝統芸能～より良い関係づくりのために

谷垣内 和子

(公益社団法人日本芸能実演家団体協議会・実演芸術振興部企画室長)

私が生まれ育った地方の山間の町では、ナマの舞台鑑賞の機会は、ほぼ皆無だった。日本の伝統楽器やナマの音に接することもなかった。幼い頃は、近所に住んでいた音楽教師からピアノを習い、小学校ではクラブ活動で器楽合奏を楽しむくらい。いわゆる音楽鑑賞は、限られたレコードやFMラジオがせいぜいだった。

先日、ある地方出身の友人との会話のなかで、コンサートホールで初めてベートーベンの第九シンフォニーを聞いたとき、最初の音が余りにも小さいのにビックリしたという共通の記憶に大笑いした。二人とも音量つまみを調整して聞いていたのだ。

どれほど科学技術が発達しようと、アーティストが演奏する姿を目で捉え、その動きを目で追い、ナマの音響を振動とともに身体じゅうで感じることの幸せは、何物にも代えがたい。柔軟な感性の持ち主である子どもたちにこそ、その感動を体験して欲しい。芸術に関わる全ての人たちに共通する願いだ。しかし、最初の出会いを幸せなものにするには、どうしたら良いのだろうか。まして、日常的な存在とは言い難い伝統芸能では……。確かな答えはない。

2002年の『学習指導要領』で「和楽器」という語が初登場した。14年も前のことだ。誰もが「日本の楽器」と理解できる言葉として生まれたという。これを機に、義務教育のなかで「和楽器体験」をどう実践するかが話題になり始めた。

移行措置期間の2000年から、日本芸能実演家団体協議会(略称:芸団協)では、実演家がどのように貢献できるかを探るために、教員対象の実技研修を実施していた。しかし、回を重ねても、一向に授業に直結するような手応えは見えてこなかった。

単なる実技研修では意味がない! そう思った私たちは、先生と実演家とが協働できる授業プランを作って、先生には必要な知識や技術を予め身に付けてもらい、授業には実演家も関わるプログラムを考えた。生徒はコトバを作り、伝統的な発声や楽器の奏法を学んでオリジナルの作品をつくる。最後にプロの演奏を味わう構成で、生徒も教員も実演家もそれぞれが当事者意識をもつ仕掛けだ。私たちはコーディネーターとなり、客観的視点を得るために音楽教育学と発達心理学の専門家たちにアドバイザーを依頼した。

子どもたちが日常生活を送っている教室に、非日常を持ち込むことで、体験はより深くなる。2003年からの3年間に延48校で実施し、それなりの手応えを得た。しかし実演家にとっては、いわばアウェーでの実践であり、伝統芸能との接点をつくるきっかけづくりに徹したところに課題が残った。

次に取り組んだのが、実演家のホームグラウンドである稽古場に子どもたちが身を置くプログラムだった。約半年間の稽古の後、本格的な舞台上で発表する。とてもシンプルな内容だ。繰り返し稽古を重ねるなかで、技術の習得だけでなく、和室や能舞台などの場が持つ力、実演家の振る舞いやちょっとした言葉、天候が楽器に及ぼす影響、正座した時の足の痛さ、足袋の履き方、着物による動きの制約等々、さまざまなレベルで伝統芸能の断片が一人一人の子どもに心身に沁み込んで行く。一過性の体験では得られない「経験の蓄積」である。

稽古を通して、家庭や学校で伝統芸能が話題になる機会が増え、関心の輪が少しずつ広がっていく。「キッズ伝統芸能体験」と名づけたこのプログラムは、今年で9年目を迎える。参加希望者は増加傾向にあり、伝統芸能への潜在的なニーズを感じる。

伝統芸能が非日常的存在となって久しい。子どもたちは、偏見を持たずに、真っ新な心で受け止める。だからこそ、最初の接点をどのように提供できるかが大きな問題となる。前掲の「キッズ伝統芸能体験」は、主催者に社会的信頼がある、プロから学べる、参加費が低額、継続的に実施していることなどが、保護者の不安を和らげているようだ。しかし、資金には限りがあり、期間とエリア限定のプログラムでしかない。次の一手をどう構築できるか。どうしたら関心のない人たちに興味を持ってもらえるのか。堂々巡りのように問いかけは続く。

まずは、実演家と子どもたちが交流する場と機会を増やすこと。いろいろな人が、いろいろな場所で、工夫を凝らし、多様なプログラムを数多く提供し続けることが必要だ。その際に、関わる人も内容も場所も、良質であることは最低条件である。ジャンルや年齢は関係ない。大切なのは表現者としての力と本気度。プロとしての生き方に誇りを持ち、ブレないこと。どんな時でも、他者を思いやり、柔軟に対応できること。そして何よりも、学び合う姿勢の持ち主であること。そんな本気度の高いプロがもっと欲しい。

子どもたちとの学び合いは、確実に伝統芸能の未来を豊かにするはずだ。そしてその周辺に、仲介役を買って出るような、ちょっとばかりお節介な理解者や協力者がいれば文句ない。私はそういうお節介なオバサンでいたいと思う。

谷垣内 和子 (たにがいと・かずこ)

和歌山県出身。地歌箏曲を中心に研究活動を行うかたわら、現代の伝統芸能を取り巻く文化環境に関する調査や、伝統芸能普及プログラムの企画制作等に携わる。共著に『実演家が学校にやってきた-和楽器授業ガイドブック』『日本の伝統芸能講座-音楽』『伝統芸能の現状調査』報告書など。現在、(公社)日本芸能実演家団体協議会・実演芸術振興部企画室長、(一財)地域創造「邦楽地域活性化事業」のコーディネーター等も兼務。



1、子供のための組曲 長澤勝俊作曲 (1964年)

- 第1章：軽やかにのびのびと 第2章：ゆったりとうたう感じで
第3章：遊戯唄風におどけて 第4章：しずかに子守唄風に
第5章：激しく律動的に

『日本音楽集団の事務所の近く、青山通りに出ようとする所に、童話屋という児童書専門店がある。この店の包装紙には小さなシールがはってある。そこには「ほんとの子どもと大きくなった子どものための本屋」というキャッチフレーズがささやかに書かれている。〈子供のための組曲〉や組曲〈人形風土記〉をかいた私にとって、それはなんともすがすがしく心温まる思いがした。

私が〈子供のための組曲〉をかいたのが十七年前のこと。今や家庭や街にはテレビや映画に音と映像が満ちあふれている。子供の心をしっかりとつかんではなさない作品をかくことは至難のわざといえよう。私は常に原点に立ち返り、感性をよりとぎすまし技術のみがき、第二、第三の子供のための曲を書き続けていきたいと思っている。』
(長澤勝俊／邦楽現代11号：1981年春号)

[尺八] 米澤浩 [尺八II] 阪口夕山 [尺八III] 原郷隆
[三味線] 二代目 三山貢正 [琵琶] 藤高理恵子
[箏I] 熊沢栄利子 石井香奈 [箏II] 久東寿子 三宅礼子
[十七絃] 宮越圭子 佐藤里美
[打楽器] 尾崎太一 仙堂新太郎
[指揮] 稲田康

2、子どものための組曲 篠田大介作曲 (2015年・舞台初演)

第1楽章 第2楽章 第3楽章

この曲は、いつもは音楽になじみのない子や、邦楽器の演奏を聞いたことがない子にも「純粹に音楽を楽しんで貰えたら、邦楽器を楽しんで貰えたら」という思いを込めて作曲しました。なので、聞き方はそれぞれの自由、「なんか太鼓の人凄い!」でも良いし、「尺八の人、息が苦しそう!」でも、なんでも好きなように聞いてくれたら嬉しいです。

作曲中は、僕自身が子どもだった頃を思い出し、プロの音楽家を志す前の、とにかく純粹に音楽が好きで、好きな曲をヘビーローテーションしていた頃の気持ちを思い出しつつ作曲したつもりです。

僕は小さい頃から音楽が好きでしたが、中学高校になっても周りには音楽好きな友達が沢山いて、バンド活動に熱中したり、夜通し音楽について語り合ったり、そんな日々を過ごしていました。

今僕は、仕事として音楽に関わらせて頂きとても充実していますが、その頃の友人達も仕事ではなくても今でも色々なやり方で音楽と共に生き、幸せそうです。きっと音楽にはそういう「人生を豊かにする力」が有ると思っています。勿論音楽じゃなくても良いのだけれど、そういう「子どもの心」で夢中になって一生楽しめるものが有ると幸せだと思うので、皆さんにもそういうものに是非出会って欲しいと思っています。

(篠田大介)

[笛] 新保有生 [尺八] 原郷隆
[三味線] 守啓伊子 [琵琶] 久保田晶子
[二十絃] 熊沢栄利子 [十七絃] 城ヶ崎美保
[打楽器] 盧慶順

3、子どものための組曲 福嶋頼秀作曲 (委嘱初演)

第1曲・速めの拍で 第2曲・遅めの拍で

英語にピアノ、バレエやサッカー…都会の子どもは毎日の様に習い事に通い、週末には各種イベントに参加する。自然に囲まれて育つ田舎の子どもがうらやましい…と思いきや、キャンプ体験や自然観察教室、等もあるそうだ。

その気になれば何でも学ぶことができるのが、今の子ども達。でも、与えられてばかりでは、自発性が育たないかもしれませんヨ？

そんなハテナマークに一石を投じよう、というのがこの曲の試み。というのも「演奏者に、テンポ変化や強弱などの表現を、自由に考えてもらう」といった仕掛けがあるから(もっとも今回の演奏者は「今の子ども達」ではなく、「昔の子ども達」なのだ)。

『第1曲』には「速めの拍で」とだけ書いてあり、強弱などの指示が全くない。前半と後半は対位法という作曲方法で、笛・尺八と箏による3つのメロディーがからみあう。中間部は対照的に、複雑な響きのコードが特徴。

『第2曲』は冒頭に「遅めの拍で」とあり、途中から「のってゆき、速くなる。(この曲には、強弱の指示あり)。静かにスタートし、アドリブ演奏をはさみ、十七絃にゆったりとしたメロディーがあらわれると、それが何度も繰り返され、最後はにぎやかになって終わる。

作曲家もハツとする様な、新鮮で魅力あふれる音楽!…みなさん、ぜひ一緒に楽しみましょう。

(福嶋頼秀)

[笛] あかる潤 [尺八I] 阪口夕山 [尺八II] 渡辺淳
[三味線] 穂積大志 [琵琶] 久保田晶子
[箏I] 桜井智永 [箏II] 三宅礼子 [十七絃] 久本桂子
[打楽器] 島村聖香 細谷一郎(助演)
[指揮] 苦米地英一

4、子どものための組曲 高橋久美子作曲 (委嘱初演)

I : とまらない時間 II : ねむい III : あそび IV : 小さなおくりもの～あしたへ

子どもの宝箱の中は、不思議な驚きと喜びで満ち溢れている。他人からはガラクタに見えても本人にとっ、それはかけがえのない宝もの。組曲の一曲一曲がそんな宝物のピースとなるように願って、。

- I とまらない時間…子どもは同じ動作の繰り返しの中でも、その時々違った楽しみ方を見つける名人。
 - II ねむい…ただねむい。理由はない。本当にねむいのである。
 - III あそび…あれもこれも体験しながら自分にとって何が必要かを選ぶ作業の積み重ねで、おとなになってゆく。
- 音楽との出会いもそのひとつですね。
- IV 小さなおくりもの～あしたへ…小さな生命は、明日へとつながる大切なおくりもの。

※ 子ども達にずっと歌い継いで欲しい名曲の1フレーズをI～III章にちりばめました。
さあ、なんの曲かわかりますか？

(高橋久美子)

[笛] 遠藤悠紀 [尺八] 渡辺淳
[三味線] 山崎千鶴子 [琵琶] 藤高理恵子
[二十絃] 桜井智永 [十七絃] 丸岡映美
[打楽器] 島村聖香

5、子どものための組曲 秋岸寛久作曲（委嘱初演）

I II III IV

私が音楽に、そして邦楽器に興味を持ち始めた小学生のころ。おぼろげながら作曲家になりたいと思い始めた中学生のころ。その当時の自分に「最もお気に入りの曲」と言ってもらえるような作品を目指した、「自分のための組曲」です。いえ、自分の感覚が必ずしも一般的だとは思いませんが、邦楽器によるアンサンブルを初めて聴く子どもに、その魅力をなんとかして伝えたいと思ったとき、よりどころとなるのはやはり自分しかいませんでした。

4曲からなる組曲ですが、各曲を楽章と捉えれば、私が当時その魅力にはまったベートーヴェンやブラームスなどのシンフォニーと同様の構成となっています。作曲家への思いと邦楽器への興味がまだ結びついていなかった、当時の自分へのメッセージのようなものです。

個人的、主観的なものも客観的に表現できるのが音楽のいいところ。幼少期を思い出しながら、お楽しみください。
(秋岸寛久)

[笛] 遠藤悠紀

[尺八I] 米澤浩 渡辺淳 [尺八II] 阪口夕山 原郷隆

[三味線] 蓑田弘大 長井麻江 [琵琶] 久保田晶子 藤高理恵子

[二十絃I] 熊沢栄利子 久本桂子 [二十絃II] 三宅礼子 石井香奈

[十七絃] 宮越圭子 城ヶ崎美保

[打楽器] 盧慶順 細谷一郎(助演)

[指揮] 稲田康

日本音楽集団のアウトリーチを支える



(株)アイエムエス

●楽器リース ●移動 ●ステージスタッフ派遣

〒167-0043

東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル1F

TEL / 03-3397-2292

FAX / 03-3397-7728

E-mail / ims-mail@ims-tokyo.co.jp

Meet the 和楽器 実施一覧

【Meet the 和楽器】日本音楽集団とトリトン・アーツ・ネットワークの共催による、東京都中央区及び江東区豊洲地区を主とした公立小学校でのアウトリーチ事業

【Meet the 和楽器 第1期】(15事業) 全校児童を対象とした7名編成のアンサンブル鑑賞

2006年度	2006年6月20日	中央区立月島第一小学校
	2006年6月26日	中央区立佃島小学校
	2006年10月23日	中央区立月島第二小学校
	2006年12月19日	中央区立中央小学校
	2007年1月7日	日本橋公会堂(中央区在住者対象)
2007年度	2007年1月23日	中央区立常盤小学校
	2007年1月30日	中央区立月島第三小学校
	2007年7月18日	中央区立城東小学校
	2007年11月29日	中央区立日本橋小学校
2008年度	2007年12月21日	中央区立阪本小学校
	2008年1月14日	日本橋公会堂(中央区在住者対象)
	2009年2月5日、9日	中央区立豊海小学校
	2009年2月6日	中央区立佃島小学校
	2009年2月14日	日本橋公会堂(中央区在住者対象)

【Meet the 和楽器 第2期】(34事業) 4年生を対象とした箏体験と鑑賞

2009年度	2009年7月1日、8日、15日	中央区立月島第一小学校
	2010年2月12日、15日	中央区立中央小学校
2010年度	2010年6月30日、7月7日、14日	中央区立月島第一小学校
	2010年12月16日、17日、21日	江東区立豊洲小学校
2011年度	2011年6月27日、30日、7月7日	中央区立月島第一小学校
	2012年1月12日、13日、16日	江東区立豊洲小学校
	2012年2月7日	江東区立有明小学校
2012年度	2012年2月17日	中央区立常盤小学校
	2012年12月12日	江東区立有明小学校
	2012年12月13日	中央区立月島第一小学校
2013年度	2012年12月20日	江東区立豊洲小学校
	2013年11月15日	江東区立豊洲小学校
2014年度	2013年12月17日	中央区立月島第一小学校
	2014年12月9日	中央区立月島第一小学校
2015年度	2014年12月15日	江東区立豊洲小学校
	2014年12月16日	中央区立月島第三小学校
	2015年6月23日	江東区立有明小学校
2016年度	2015年11月5日	江東区立豊洲小学校
	2015年12月3日	中央区立月島第一小学校
	2016年10月18日	江東区立有明小学校
	2016年10月21日	江東区立第五大島小学校(5年生対象)
	2016年12月	江東区立豊洲小学校
	2016年12月	中央区立月島第一小学校

【日本音楽集団とトリトン・アーツ・ネットワークによるその他のアウトリーチ】(19事業)

	2003年3月31日	桜、桜、桜が咲いた出前音楽会 in 晴海
	2004年6月18日	特別養護老人ホーム シルヴァーウイング
	2004年6月23日	中央区立阪本小学校
	2004年7月14日	中央区立有馬小学校
	2004年7月16日	中央区立佃島小学校
	2006年3月10日	中央区社会福祉協議会「介護者交流事業」
	2007年1月21日	特別養護老人ホーム シルヴァーウイング
	2008年2月7日	中央区立明石小学校
	2010年1月15日	晴海トリトンスクエアグラウンドロビーコンサート
	2010年6月30日	特別養護老人ホーム 晴海苑
	2011年1月14日	晴海トリトンスクエアグラウンドロビーコンサート
	2012年1月6日	晴海トリトンスクエアグラウンドロビーコンサート
	2012年1月12日	江東区立豊洲幼稚園
	2012年3月31日	桜、桜、桜が咲いた出前音楽会 in 晴海
	2014年1月22日	晴海トリトンスクエアグラウンドロビーコンサート
	2014年11月18日	晴海トリトンスクエアグラウンドロビーコンサート
	2016年1月7日	晴海トリトンスクエアグラウンドロビーコンサート
	2016年1月12日	江東区立豊洲幼稚園
	2016年1月29日	中央区立常盤小学校

【日本音楽集団のアウトリーチ事業】

日本音楽集団では団員が蓄積してきたノウハウを結集し、体験型ワークショップを含む日本音楽集団独自の「アウトリーチ・プログラム」を作り上げ、【Meet The 和楽器】のほか文化庁の「文化芸術による子供の育成事業-巡回公演事業-」などで実施しています。

日本音楽集団は、芸術団体のNPO法人として地域の文化ハブである公共ホールや教育現場の方々と連携し、「アウトリーチ・プログラム」を通じて次代を担う若い世代に向けてメッセージを送り続けています。

【トリトン・アーツ・ネットワークのアウトリーチ事業】

自らの意思でコンサートホールへ足を運ぶことが難しい方を対象として、主に第一生命ホールでの主催・共催公演に出演するアーティストが施設へ出向き、ホールと同じように音楽を楽しんでもらうことを目的とした活動を年間30か所程度で実施しています。

小学校での「4年生はじめてのクラシック」や若手弦楽器奏者のための「アウトリーチセミナー」にも取り組んでいます。

ホームページでは活動のレポートを掲載しています。

最新の情報はこちらへ！！
<http://www.triton-arts.net>

トリトンアーツ

検索

特定非営利活動法人日本音楽集団

【正会員】 (団員) (楽器別・五十音順)

笛
 か 潤 三橋貴風
 あ 藤悠紀 宮田耕八朗
 遠 保生 元永拓
 新 保生 米澤浩
 竹 井誠 (尺八) 渡辺淳
 西 川浩平

笙
 三浦はな

箏
 西原祐二
 三浦元則

尺八
 大賀悠司
 阪口夕山
 原野村聡
 田郷隆
 藤崎重康 (箏)

田原順子
 藤高理恵子

箏
 石井香奈子
 伊藤麻衣子
 岡山亮子
 久東寿子
 熊沢栄利子
 桜井智永美
 佐藤里春美 ※
 島崎美保美
 城ヶ崎美保美
 彦坂恵美子
 久本桂子
 丸岡映美子
 三宅礼子
 宮越圭子
 山田明子
 渡辺正子

打楽器
 臼杵美智代
 尾崎太一
 島村聖一
 仙堂新太郎
 多田恵子
 山内利一
 盧慶順

指揮
 稲田康男
 田村拓男
 苫米地英一

作曲
 秋岸寛久
 川崎絵都夫 ※
 篠田大介
 高橋久美子
 福嶋頼秀

楽器・舞台
 中島隆

名誉代表
 田村拓男

代表
 尾崎太一

副代表
 米澤浩

運営委員
 田野村聡
 原郷隆
 久本桂子
 穂積大志
 元永拓
 山崎千鶴子

監事
 田村拓男
 三田村典昭

アートマネージメント
 大西愛子 ※

事務局
 中山美穂子

永久名誉団員
 長澤勝俊

2016年11月現在、※は林団中

● 賛助会員へのお誘い ●

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上) 法人会員30,000円(一口以上)

【賛助会員】(口数・五十音順)

[法人会員]

青和観光株式会社 代表取締役 青木 茂
 日凸運送株式会社
 (有)邦楽ジャーナル 代表取締役 田中隆文
 株式会社青和運輸
 神戸レコードクラブ/宅音便(有限会社 文)

[個人会員]

山本福八
 *
 池田紫真榮
 江西 縁
 柿崎やよい

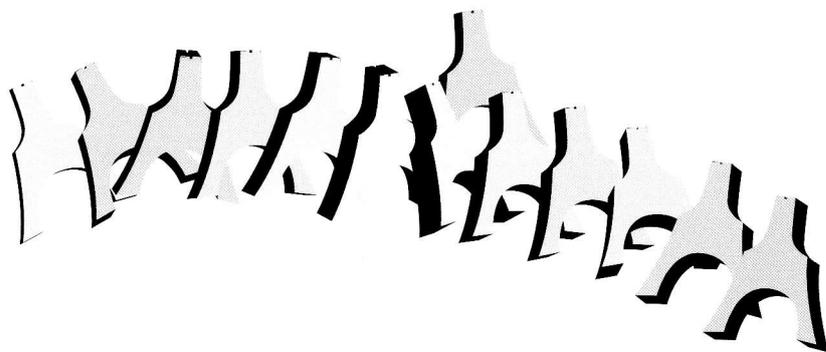
金子宜弘
 小池節美
 佐藤裕美
 藤藤玲子
 添川浩史

辻 淑子
 東 谷 仁
 友 杉 毅
 富 山 優
 堀 保 之

三宅一徳
 元永明希
 元永美代子
 森 繁美
 森 博明

山本友英

その他4名
(2016年10月現在)



株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15

TEL03(3792)8481 FAX03(3792)8437 URL: http://kinko-do.com E-mail: tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページ http://www.promusica.or.jp E-Mail office@promusica.or.jp